

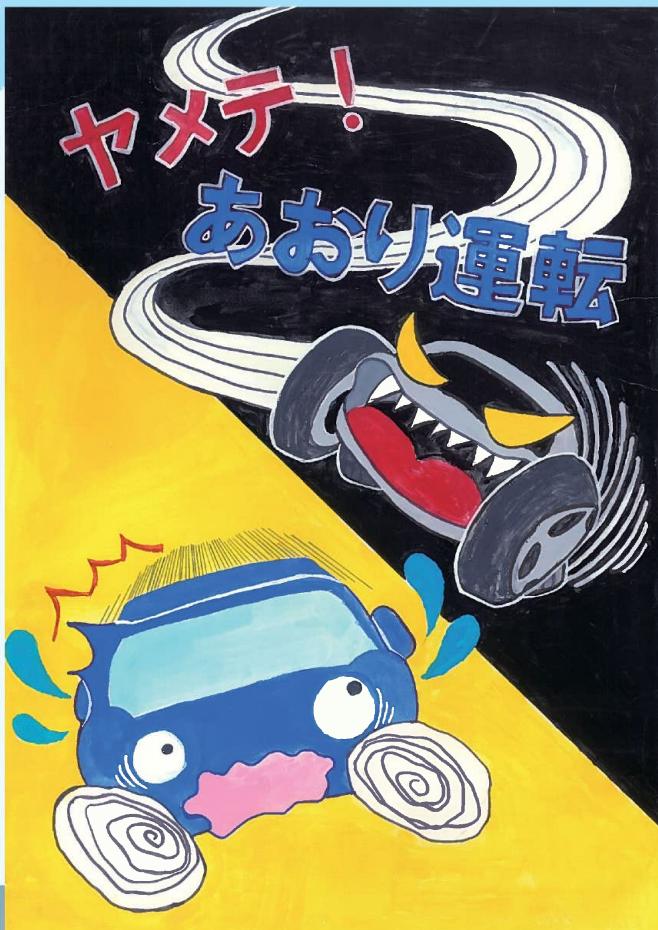
令和元年度

交通安全作品集

豊田市交通安全市民会議

豐田市長賞

小澤 一輝(竜神中2年)



豊田市議会議長賞

斎藤 ジュリアナ(保見中2年)



豐田警察署長賞

東 愛乃春(高嶺小6年)



はじめに

豊田市交通安全市民会議では、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語を募集しています。作品の制作を通して、自身の交通安全意識を高めていただきたいと共に、作品を公開することにより、多くの方へ交通事故撲滅の願いを届けたいと考えています。

今年もたくさんの交通安全作品の応募をいただきました。この「交通安全作品集」に掲載した作品は、交通事故の恐ろしさ、悲しさ、心構えなどをつづった作文、工夫されたデザインや、力強く述べたポスター、そして簡潔でわかりやすく交通安全を訴えた標語で、いずれも厳正な審査を経て選ばれた、すばらしい作品ばかりです。

この「交通安全作品集」を多くの方にご覧いただき、皆様の交通安全意識の高揚と交通事故防止にお役立ていただければと思います。最後に、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語を応募していただきました多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

豊田市交通安全市民会議

会長 古川利孝

目 次

交通安全作文の部

《最優秀作品》 6点 1ページ

① 豊田市長賞	田中 純大	前林中学校	3年
② 豊田市議会議長賞	大崎 壮太	豊田西高等学校	1年
③ 豊田警察署長賞	楠木 梨央	前林中学校	3年
④ 足助警察署長賞	栗澤 千遙	浄水小学校	3年
⑤ 豊田市教育委員会賞	山内 彩那	豊田高等学校	1年
⑥ 豊田市交通安全市民会議会長賞	佐藤 由侑馬	五ヶ丘小学校	2年

《優秀作品》 4点 7ページ

《佳作作品》 2点 11ページ

交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点 表紙・裏表紙

① 豊田市長賞	小澤 一輝	竜神中学校	2年
② 豊田市議会議長賞	斎藤 ジュリアナ	保見中学校	2年
③ 豊田警察署長賞	東 愛乃春	高嶺小学校	6年
④ 足助警察署長賞	平野 瑠理	足助中学校	3年
⑤ 豊田市教育委員会賞	田中 千晴	元城小学校	1年
⑥ 豊田市交通安全市民会議会長賞	寺田 陽香	若園小学校	6年

《優秀作品》 13点 13ページ

《佳作作品》 30点 16ページ

交通安全標語の部

《最優秀作品》 1点 21ページ

① 豊田市交通安全市民会議会長賞	水口 優莉子	前山小学校	1年
------------------	--------	-------	----

《優秀作品》 12点

《佳作作品》 12点

交通安全まんが 23ページ

『世界中から交通事故が無くなる』と願つて』

前林中学校 三年 田 中 純 大

一八九。この数字が何を表しているか皆さんは分かりますか。これは二〇一八年の愛知県での交通事故死者数です。僕たちが住む愛知県は日本で一番交通事故での死者数が多いのです。

僕は毎日、自転車で登下校をしています。ある日、家を出発する時間が少し遅れ急いで学校へ向かいました。いつも通りの道路を渡ろうとした時、こっちに向かって一台の車が走ってきていました。僕は急いでいたので「まだ少し距離があるから大丈夫かな」と思いそのまま渡りました。すると、車はクラクションを鳴らし急ブレーキをかけました。運転していた人が窓を開け、「危ないだろ！」

と叫びました。その時僕は悪いことをしたと気付きました。自分の軽率な考えが大事故になりかねないと反省しました。

この体験から僕は一つのことを学びました。一つ目は、時間に余裕をもつて行動するということ。そもそも、いつも通りの時間に出発していれば僕のようなことは起らなかつたと思ひます。時間に余裕をもつて心にも余裕ができる。そうすると自然に周りが見えなくなり事故につながります。

二つ目は、危険な場所を把握するということです。通学路やそれ以外の場所にも危険な場所はあると思ひます。例えば、道幅がせまい、建物の角で先が見えにくい、急な坂道などといった所です。そういう場所を通過するときには、特に注意して走行する必要があります。

僕はこれを機会に、登下校では時間に余裕をもつて家を出発して、落

ちつて周りを見ながら自転車を走行するようになりました。いつも小さな心がけが交通事故の防止につながると思います。しかし、人間誰もが完璧ではありません。寝坊してしまったりとあります。たとえ家を出発する時間が少し遅れてしまつたところでもやんづつ落ちつて周りをよく見ることが大切だと思います。「驚く」と「焦る」は違います。

僕は交通安全へ強く思うことがあります。それは、命に代わるものはないということです。一つの尊い命を交通事故なんかで失つてはいけないと想います。テレビのニュース番組で交通事故のニュースは絶えず放送されています。その中には大切な家族や親友を失つたところの事故も多くあります。涙を流しながら話をしている人たちを見ると、自分も胸が苦しくなります。そしてそのような事故はいつ自分が起こしてもおかしくありません。自分の大切な家族や親友に起こりうるかも知れません。その時自分や自分のことを思つてくれている人はどんな気持ちになるのか。想像できますか。自分の命は自分だけのものではありません。そんな命を簡単に失つてはいけません。交通事故が起きてからでは遅いのです。

僕は自分の住む愛知県が日本で一番交通事故死者数が多いなんて嫌です。しかし、僕が望むのは愛知県がこのランキングのワースト一位から抜けることではありません。僕が望むのはこの日本、そして世界中から交通事故が無くなることです。全ての人々が小さなことから意識あることで変わると信じています。世界中の交通事故死者数がゼロになる日を願つて。

『自転車事故を減らすには』

豊田西高等学校 一年 大崎壮太

僕は現在高校に自転車で通っています。自転車が関わる交通事故は全国的に見ても毎年伸びて多いし、多くコースで見るので、十分に注意して登校していくまです。しかし、交通事故死に占める自転車運転者の割合では世界で日本は一位です。他の国と比べて道がせまつたり車がかつたりといふ理由があると思いますが、一つ大きな理由はヘルメットを着用する人が少ないところといふにあります。

僕は以前「ヨーロッパ」に住んでいました。「ヨーロッパ」では、自転車に乗る時にヘルメットを着用する人が常識になってしましました。外に行けばまあヘルメット無しで自転車に乗つている人はいなかつたし、誰も着けることに疑問を感じていなかつたです。学校に行つても自転車置き場にとめてある自転車には全てハンドルにかかつていたりかごに入つていたりしていました。むしろ着けることに対してもマイナスなイメージが少しもなかつたです。僕もそれが当然だと思っており、逆にヘルメットなしで自転車に乗つたことがあります。

しかし日本に引っ越してきたり、少しカルチャーショックを受けました。学校に行く時は先生に着けていたないとおどりわれるかのところの理由で着けて行く人が多かつたですが、友達と遊ぶ時とかにはヘルメットを着けている人は滅多にいませんでした。外で自転車に乗つている人を見つけても十中八九ヘルメットを着けていました。住んでいたうちに何となく「ヘルメットはかっこ悪いし面倒臭いし普通は着けない」みたいなヘルメットに対するマイナスなイメージが日本にはある事に気がきました。ヨーロッパではみんなにみんなが喜んで着けていたヘルメットが、国が違うだけでこんなにもみんなが嫌がるなんて、驚きました。

友達と自転車で出かけた時に、「どうして皆ヘルメット着けないの？」と聞いたら、

「絶対先生にはねならから大丈夫だよ。」

「絶対先生にはねならから大丈夫だよ。」
といつ返事が返つてきました。やはやヘルメットは頭部を守るとこの田舎ではなくて、先生に怒られないために着けるものになつてしまつてしまつた。僕も段々ヘルメットを着けずに出かけることが増えてしまつた。また、高校生になつてからは登校に着けてくる人を見なくなりました。

今の日本の状態から「ヨーロッパ」のような状態にあることは随のなく難しくと感じます。なぜなり、国民全員、一人一人の中のヘルメットのイメージをがらっと変えなければいけないからです。人間といつの人は周りにあわせてしまつ生き物なので、今のままだとヘルメットを着用しない人が圧倒的に多い今の状況だとどうんヘルメットを着ける人は減つてしまつ一方だと思います。

その限りなく難しことを実現するためには、これがいかのか。これからヘルメットを着ける人を増やすためには、やっぱり自分や周りの人気が着けはじめることで、少しづつ増えていくと感じます。なので僕も外出する際には少しづつ着けていくのを癖にでもねもとに頑張ります。

『アイコンタクトで事故防止』

前林中学校 三年 楠木梨央

最近、運転手の操作による事故が多発しています。交通事故には様々な種類があり、わき見運転やスマホを見ながらの運転、信号無視などがあります。しかし、交通事故は、自分が怪我するだけではなく他人にも怪我を負わせてしまうことに変わりはありません。命を危険に晒し、最悪の場合、命を落とすこともあります。交通事故は必ず防がないといけないと、私は思います。

父は毎日、車に乗って通勤してらも。おねり、父は、「今日、自転車に乗った中学生が、急に田代わらきになつた。」と、言つてらました。中学生が並走してて会話を夢中になり、信号の無い横断歩道に、急に曲がってきたもつじ。スピードが出てしなかつたので、もぐに止まれたそつですが、もし、スピードがゆつと出でたら、とても危なかつたと言つてらました。私も自転車で学校に通つているので、他人事ではないと思いました。実際、私は、「あの車は多分、私に気づいて止まつてくれるだろ」とこの車を過信つかれてるところがありました。

しかし、私のこんな甘い考えをかき消すほどの「ヒヤツ体験」をしました。それは、私が朝、学校に行く途中に起つた出来事です。ある会社から出て来た車が突然急発進してきました。大きなエンジン音を立つながら猛スピードでこつちに向かつて来ています。この車は、前を走っていた車を抜かそうとしました。そのため反対車線にいた私の方に車はやって來たのです。その車は、私と数十センチとさうきりぎりの距離を通りあがました。血の気が引くほど怖い思いをしました。

私は、朝の出来事を母に伝えると、「じの車も必ず止まつてくれると過信してはいけないよ。自分の目で確

認する」とが大切。」

しかし、私は、小学生の頃とは違う、自転車に乗る機会がとても多いです。それは、一歩間違えると、加害者にもなりゆくことがあります。私は、「自転車に乗る側の責任」があると思います。私は、これを常に意識するようにしています。

私は、こんな「ヒヤツ体験」や「自転車に乗る側の責任」ということから考えたことがあります。それは、「アイコンタクト」です。お互いがアイコンタクトをとることによって相手の意思が分かります。一人ひとりが少しあつても、「思ひやつのある運転」をあるひとで、事故は減つてしまふのではないかと思ひます。

私は、今、「アイコンタクト」を常に意識しながら、自転車に乗るよう心がけています。少しでも「思ひやつのある運転」が増え、交通事故がゼロに近づいたい良ふと思ひます。

『交通安全について』

浄水小学校 三年 栗澤 千遥

夏休みに入り、新聞や「テレビ」や「交通事故」のニュースを数多く聞くなり
とがあります。

わたし自身も夏休みにこわい思いをしました。信号のない交差点で、
わたしがおうだん歩道をわたった二十秒ぐらい後、後ろで「ドーン。」
と大きな音がしたのでふりかえってみると車と車がぶつかりました。
もしわたしが二十秒後に、そのおうだん歩道をわたっていたらひかれ
いたかもしれません。その場所はよく事故がおひいていて前にも見た事
があります。わたしはその場所を避けて事などで通うので信号があつたり
安全なのになあといつも思つてこま。

事故は車が原いんだだけではなく歩行者による事故も起れることが多い
あります。ボールをおいかけて立てまわりをよく見すことひだしてしま
ったり、友だちを見つけて会いに行いつとあるときも左右をよくかく
にんせあわたらうとして事故にあひります。とびだしは自分が
氣をつけなければいけないことがでせるので道をわたりぬときは左右をよく
見てちゅうじしてわたるのとを心がけたこと思つてお。

それから、自転車の事故もたくさん起きています。ヘルメットはじ
のちを守る大切な物です。なので自転車にのるとやせまづつでもわすれ
ずのかぎりたとと思つます。

わたしは、この作文を書きながら家の近くの交通安全について教えてみ
ました。お父さんは、車をよく運んであるのでびりに道を走るときや
じゅうたじのときなどは、事故を起こさないように気をつけてほしいと
思つます。弟は、まだ小さいので道を歩くときはお母さんと手をつない
で歩いてほしだす。お母さんは細い事などよく車でつれていくてくれ
るので安全に運んでんをしてほしだす。わたしは、三年生になって一人

でお友だちの家へ行つたのがふえたので、おうだん歩道では手
を上げて左右よく見てわたるのを一番気をつけたと感じます。もし大
切な家ぞくが交通事故にあってしまつと、とてもかなしきのや家ぞくで
もう一度交通安全について語り合つたと感じます。

わたしは、小さくから交通安全のルールについてお父さんやお母
さんに言わせてもらつことがあります。道路をわたるときは手を上げてわ
たること、おねりをよく見てわたること、信号が青でもまがつてくる車
には気をつけないと、シートベルトをしっかりつけること、自転車に
のるときはヘルメットをかぶること、ちゅう車場では車に気をつけな
いなりです。これからもいれのことを守つて自分のことは自分で守れ
るよのになつたとです。

『身近な危険』

豊田高等学校 一年 山 内 彩 那

最近、子供わや高齢者による事故が増えています。私の学校では、自転車通学をしている人は事故に巻き込まれないようとの連絡がよくあります。私はバス通学なので、自転車通学の人に対し事故に巻き込まれる可能性は少ないと思います。でも百パーセント安全かと言われるど、自信を持つて「ほつ。」とは言えません。

通学に自転車を使用している友達から「転んだ。」や「車ひぶつかりそうになった。」と聞くことがあります。その話を聞く度に自転車通学は危ないなど思つてしまります。

自転車による事故は雨の日や風が強い日、雪が積もつている日などに多く発生してくるそうです。また、朝の通勤・通学時の八時頃、帰宅時の夕方十七時～十八時頃にも事故が多く発生してしまいます。

私は普段から自転車を利用していながら、久しぶりに自転車に乗ること少しふらつてしまふ時があります。特に信号がない横断歩道では車を待たせてしまつてあるところアラシシャーを感じて焦つてしまつたり、横断歩道を渡り終えたあとの歩道の幅が狭いと、上手くきりかえをすることができずモタモタしてしまふことがあります。他人から見ると自転車に乗ることは簡単そうに見えますが、実際に乗るとこうしたヒヤッとした体験をすることもあります。やはり横断歩道を渡る時は普段以上に安全に注意しなければならぬと思いました。

私の高校では、夏休みに入る前に自転車の安全利用についての指導がありました。正直、私は自転車通学ではないし、普段も自転車に乗ること無いので特に関係ないだらうと思つていました。しかし指導してくれさせていた方の話を聞いてみると、いろいろと知らない知識が頭に入つてきました。例えば自転車は、例外を除いて車道を走らなければい

けない」と。自転車では歩道を走つてはいけないとのはなんとなくわかっていましたが、標識ややむを得ない事情がない限り歩道を走つてはいけないと規則があるのは知りませんでした。さらにそれらの行為を三年以内に二回以上違反すると、講習を受けなければいけない。または罰金があることも知りませんでした。園児の頃から自転車についての講座を受けてきたのに、普段自転車に乗らない私は自転車について曖昧な知識しか持つていなかったことがわかりました。夏休み前を受けた講座は私にとって自転車を利用するまでのルールを再確認できた、とてもいい機会になりました。私たち高校生にとって自転車による事故は最も身近な事故だと思つます。私のように自転車通学ではない人もたくさんいるかと思いますが、自転車通学ではないからの記述では決してないと思つます。歩いていても、電車やバスに乗つっていても、事故にあり可能性は十分あります。スマホにばかり目を向けず、周りのことにより敏感になつて過ぐかこと大だと改めて実感しました。また、自転車に乗る機会が少なくて、自転車を利用するまでのルールは最低限知つておくべきだと思いました。みんなでもう一度ルールを確認を、毎日安全に暮らしていきたいです。

『父と黙っておしゃべり』

五ヶ丘小学校 一年 佐藤由侑馬

この物語のかぎりながい葉月ホールをゆきにじて車にのつた
で。

「ほんせ、お父さんじつて車で走るか、車で乗るか大あわじや。ほ
うの車用にせ、あれになゆうほ道があるよ。ルリは車は来まか。
ほんせの道でじてん車のれんじゅうをしました。じてんじょのかに
のれるよひになゆう、ほんせはひじゆうねくもだ行もたくなつま
した。

「お父さん、ほんせにむかひました。」

お父さん少し歩いてもつた。

「ほんせあるなほ道がたゞむろある。おのせがのねじてん車わらしが
ちかえぬじ、じてん車をかうなのつむのなむだ。だからじてん車にのる時
のお父さんとのねやくわくがまわれぬかな？」

ふのじてん車、ほんせをしながらほんせお父さんひだりのねやくわくを
しました。

「ほんせ、かねりおぐるメントをかぶる。

「ほんせ、じてん車をつかうとひからへ出だ、かねりおがねをよくかべ
にこつめ。

「ほんせ、こねじりませ、こねたさんじゆうくわく。

「ほんせ、あざじよおねねうじのスリーブでせつひ、こねじりがな
じるやうだせわうじスリーブをあねる。

「ほんせ、じてん車は、道の左がねをほこり。

「ほんせ、じてん車じめおねく人にのりのこをつてほんせもくわくをつ
く。

「ほんせ、ほんせがお父さんじゆうの走るか、車にのつたけだけではな
ほんせが一人でじてん車にのる時もかねりおねやくはこむかねじねや
くわくだ。こねりおのねやくはくに坂をのこり、つれはじくほんせ。

『わたしの自転車デビュー』

寿恵野小学校 三年 岩崎奏音

「わが家のわたしは自転車にのれるようになったのは三年生の春。それまで同じ小学生が自転車にのつて、自転車に行きたうといふに行つてくるのがつらやましかったので、

「これでわたしもみんなと同じだー。」

と、とてもうれしくなりました。でも親は

「なれるまでは一人で自転車のうへ出かけてはいけない。」

と自転車でのお出かけをゆるめてくれませんでした。せっかくのれるものにならなかったのに、つまらないなつらしくもれてしまつた。

ある日、家そばで田間がじまに行きました。しまにはロングサイクルがあり、車や歩行者の少ない、家そばへしょく行動するなら大吉よつぶかなと、みんなでサイクリングをやるといつらになりました。はじめのサイクリングが旅先だなんでおしゃれだなあ、とトランクが上がりまつた。出ぱつする前、親に「今までは歩行者だったから、車も自転車にのつてくる人も、歩行者に坂をつけてくれたけれど、自転車にのるとかがうれしなゐ」ともある。あわてなくてこつかり、とにかくあん全だーを心がけたね」と仰われました。耳へ出ぱつたかったので

「分かっているよ。」

としきりとくへん事をひいのつました。

先頭はお母さんと弟の一人、つれにわたし、わたしの後ろにお父さんといつらじゅん番で出ぱつた。せつよいよ出ぱつたけれど、だんだんなれてきて、自転車を楽しむながらじみじみが出来ました。

「ああ、自転車にのれるやつになつてよかつたなあ。風が気持ちいいし、楽しかったー。」

ハレハレに樂しみながらの感覚。

つまを半つまのあぐれ上のもかがふれてもつた。自転車をおりておひつをきます。ただ歩くのとどちらがて、ふるふりつてつまつとも多く、後ろから来た車が大きいやつてくれたのが分かりました。たゞ向車がじなかつたからよかつたけれど、わたしがきつかけだつたな、まわりが見えじなかつたな、と樂しかつた気持ちが一気にくじみました。

上りをかをすみると下りをかになりました。せつよいぞスパートを出したいのに、じぶじぶはやくなる田ん車。ブレーキをかけなきやと思つても、あせる気持ちが止まらざるせん。ハンドルもブレーキも、じつじつこのが分からなくなつて、

「やだーー!!」

田の前にせかん光路の中が見えました。せつたうじぶつかつてほじかないと思つて、思つぱりブレーキをかけました。だれにもぶつからずに止まれたけれどわたしは車道のまん中近くまで出でしまつたので、もし車が走つていたらかれでいたのかもしれません。何も起じぬくてよかつたけれど、それまで樂しつのつていた自転車が、あやつりきれなさいわいのり物に見えました。その時、出ぱつ前に親が言つた

「自転車はかがう者にならん」とがおる。」

とじりの言葉を思つ出しました。もし歩行者じぶつにかかつてじぶつに壁のじぶつと、わたしだけでは何でもない、家そばへしょくわくをかけじつめり・・・色々な気持ちが頭の中にうかびました。あん全だー、つて本とのに大切だなど、心ぞのじきじきがなかなか止まりませんでした。自転車にのれるようになつても、道を走るには、わたしはまだ練習ぶ足でした。

樂しげぐれの自転車。その分、あくまでもじぶつです。歩らでいる時や車にのつている時に自転車にのつている人を見たり、じぶんのり方で、じぶんとに気をつけているのか、また近くを走つている車は自転車をどう見てくるのかを見るものになりました。じつか自分も親もあん心して一人自転車デビューが出来るもの、のり方の練習とあわりを見る力を身につけてきました。

『せじゆの班』

高嶺小学校 六年 犬塚 拓磨

ぼくは今年通学団の班長をつとめます。ぼくは班長をやつたことがあります。でも、班長をきぬるとき、そのときの6年生の子がぼくが班長だとつぶやいていました。

「みんなうだうじよつるだも。」

とつぶやかれました。聞いてくれたからなにとかがんばりたいと思つました。

ぼくが班長になつて四か月がたちました。ぼくの班には一年生が四人います。一年生のおむかえは班の六年生がつとめてくれたけで、ぼくははやめに集合場所でまつよいについてつきました。わざしょは歩くスピードをあわせなうことにけなこと思つて大変でした。でもぼくが一年生のときによくつてくれた班長さんのことを思いだし、声をかけたりゆつべつと歩くはやさをあわせてあげました。

コースで、車がつとこんでくる事故を見ました。自分たちがルールを守つていても事故にあつたのがおかしく思つて、ひとわいわくなりました。でもぼくが班長としてやめないとがんばつてつめたじと感じました。

これまであたり前に通学団で登校できていたのもそのときの班長さんや副班長さんのおかげなんだと思いました。これからもその感謝をわすれず、班長をがんばつてつめたいです。



『祖母の事故をきっかけに』

前林中学校 三年 手 嶋 彩 依

最近、高齢者の運転による交通事故の一コースをよく目にします。たしかに人が巻き込まれ、中には命を落とす人もいます。それにより、高齢者の免許返納について考えられるようになつてきました。

私には、同じ敷地内に住む祖父母がいます。祖父は七十代、祖母は六十代後半ですが、どちらもとても元気で、毎日車の運転をしています。私も妹も留い事の送り迎えをよくしてもらっています。そのため、高齢者の免許返納についてなど、考えたこともありませんでした。ニュースで話題になつてじることは知つてしましたが、私の家族や祖父母には関係のないことだと思つてましたのです。

ところがある日、祖母が事故を起こしました。軽トラックを運転中、居眠りをしてガードレールにつつこんでしまったのです。私は見ていましたが、軽トラックは修理不可能な状態で、後から見に行つたガードレールは、ぐにゃぐにゃに曲がっていました。私はそれを見て、少し怖くなりました。もし、人を巻き込んでいたら、大惨事になつていたかも知れません。今回祖母は、肋骨（あねこつ）にひびが入るケガですみましたが、場合によつては命を落としていたかもしれないのです。

その時から私は、高齢者の事故や運転免許の返納について考えるようになりました。でも実際免許を返納するとなると、祖父母の生活は成り立たません。買い物、仕事、通院、曾祖母の世話を、車で移動しなければいけないことはたくさんあります。そんな祖父母に、免許を返納してほしいとはなかなか言えません。でも私は、祖父母が大好きです。祖父母の命が何より大事です。祖父母の命を守るためにも、やはり免許の返納について考えなければいけません。

私には、遠くに住んでいる母方の祖父母がいます。祖父は、病氣で左

半身に麻痺（まひ）が残り、車の運転ができなくなつたため免許を返納しました。祖母は、免許を持つていません。何年も前から車のない生活をしていますが、自転車や交通機関を使つたり、重い荷物などがある時は、近くに住む叔父が送迎をしたりして、不自由なく暮らしています。その限りで、車がないと生活はできるのです。
だから私は、すぐには無理かもしませんが、いつか祖父母に免許返納について話してみたいと思います。
そして、もし祖父母が免許を返納する日が来たなり、その時は少しでも不自由にならないように私がサポートしていくたいです。

『「一瞬」の重み』

豊田西高等学校 一年 長江彩花

私は父親が亡くなりました。私が小学校一年生のときに、交通事故で亡くなつたからだ。

父親が亡くなつたのは、今でもよく覚えてる。朝、学校に行くのを止められた私は、母から事故があつたことを聞いた。十一歳で、クリスマスに何を貰おつかとつくづくして、いた矢先の出来事であり、あまりのショックに私は丸一週間学校を休んだ。

当時まだ幼かった私に対して、家族はその後のことをあまり語ってはくれなかつた。裁判のこと、保険のことなどである。田舎で疲れてしまふ母の姿を見ることができない自分が、とても悔めしかつた。

そして私は、せめて自分なりに父親の死と向き合おうと、交通事故について調べ始めた。交通事故なんて、ニュースで日々見かけないけど、やつ多くはないと思つてた。しかし、自分の住む愛知県がワースト一位であることを知つてしまふ、愛知県に住んでるせいだと、今度は環境を恨むものになつた。

父の事故の加害者は、結婚による事故後すぐに救急車を手配したりひき逃げにはなのなかつた。別にひき逃げして欲しかつた訳ではないが、その事実が、逆に私の心で発散しきれなく鬱屈となり、身の回りに八つ当たりせあにはじめなくなつた。父の死に悲意がなじかに詐せなんて、私は素直に理解ができない。

でも、本当に辛かつたのはその後だった。学校へ再び通つ始めるが、クラス中で「彩花の父さんが事故で死んだら」と噂になつてた。「死んだんでしょう？」と直接聞かれることがあつたし、中には「どんな風に死んだの？」と云ふこともで聞かれた。聞こ質されるところだけで、何か自分が悪いことでもしたような気持ちになつたし、逆に励まされても「いい

ね、あなた」は父親がいて。私の気持ちなんて分かのないやつかに」と毎回になつた。

交通事故は、どうしても「撲かれた」「撥ねられた」といつ被罰に遭つた氣持ちは大きくなりやす。実際、病気や老衰のように自分の身ひとつ起つたことだければ、傷害や殺人のように、大抵の場合相手が故意という訳でもない。体の仕組みでも、悪意でもなく、ただほんの一瞬の心の余裕が交通事故を引き起こし、ひとを殺めるのである。残された遺族達は、結果のといふ、私のように何かのせいで悲しむしかなくなる。

それは、自動車だけに限られる話ではない。私は今、自転車で登下校している。疲れていて、つづボーッとしているかとなるとわかる。わし、その一瞬で、赤信号に止まつたかなかつたり、前を誰かが歩いていたり。交通事故は、簡単に私達を被害者にも加害者にもある。しかし、交通を利用する全員が注意をしてさえいれば、絶対に防ぐことができるのが交通事故なのである。

ではなぜ、それを分かつてしながら誰かが注意をねらうたり、今日も世界中で交通事故が起つて続けるのか。それは、どうかで「いまでは交通ルールを無視してもらは」と云ふがみんなの中にあるからではなくだらうか。國柄によつて程度はあるが、日本でも、「後部座席はシートベルトをしなくていい」「運転者が点滅してても、走るなり渡り始めしよ」などといつたことは、世間では暗黙の了解になりしがね。しかしあれでは、度を超えたルール無視も起つるに決まりでる。

交通ルールを少し破ることで、一瞬の解放感や数分の時間短縮が味わえるかわしえない。でも、同じ一瞬で、私達は簡単に死んでしまうことを忘れてはならない。全員が等しくルールを守れば、そもそも「相手に非があったので、この事故は彼のせいもなかつた」なんてことは無くなる。悲しみの矛先すら分からぬ、虚じだけの死がこれ以上増えなくなる、「一番大切なこと」を教え、選びとつてしがい。それば私のクロスマスクも、わの少し待ち遠しくなつてたかもしないのだ。

『ぼくの「うつうルール』

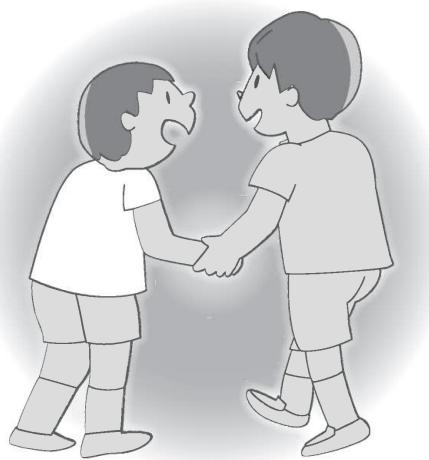
净水小学校
一年佐川
想

なつやあみの「コースでじつたあおひのこんどん。」ぼくは、じつもいわくて、あぶなじなどおもこました。このふくじのひのれだじまつたり、バツクしたり、あめいによいはうつしはダメだといおせこがわ。ぼくは、みんながちやそといひのひルールをまもつたり、あおひのこんどんせくなぐるひとおむろがわ。

「ほんた、ぼくがあめたいいのハニーールがありまわ。それは、パパやママがくねおをひんてんきゅうじゅう」と、ペリーードをだせなうやうにかきこみます。ヒーリー、トトロもハニーールをひんてんこらるひとかみへこつてこねあ。「ほんた、「田サロおじだよ。やハペリー」だせなうじ」ヒーリーと、ペペが「わかつたよ。おつがといひ。」ヒーリー、スペードをおひらひつてくれます。

ねどいのとせ、こいつむかわいしゃじょのひだせりつあねつてこね。ママ
がこいつを「へんな物がへんなからねがふなこや。」とかおひづりあぬかく、この
ひとをあわあわかん。だから、世の中、ねぶりのひとをつねびぐひにつけ
こねあ。こいつならだらり、ねぶりのとせ、こいつちよにぬるべがいになりま
した。

ぼくは、じついついじいだけがをしたりいやです。パパやママとあえなくなつたらかなしじから、だから、ぼくは、じついついルールをまわります。



『お先にいるわ』

美山小学校 六年 佐々木葵彩

この作文を書いたのは、おはありやさんの「描かわつかわ」でした。

それは、

「さあきん、横断歩道をわたるのところの歩行者を、無視する運転手が多いのよね。」「それでは、私もちよいじ」一週間前、学校の帰り道に同じ気持ちになつた出来事がありました。

それは、横断歩道を渡るのと、私が一台の車がきました。その車は、私が止まっている姿を、分かつてはあなのに、スピードをゆるめる」となく、私の前を通り過ぎて行きました。

「おかしいなあ。運転手さんと田が合つたはずなのになあ。分からなかつたのかなあ。」

そんな事を考へていたら、140㌢の車が止まつてくれていました。

運転者のおじさんは、私に

「こころよ。こころよ。」

ひ、手で合図をつてくれました。

私は、

「ありがとうございます。」

と、慌てながら渡りました時、

「うっ！」

大きなクラクションが、おじさんたちの後の車から、鳴り響きました。

私は、横断歩道を渡る事をやめようとした、おじさんに、「車がお先にどうぞ。」

と、手で合図をしました。

すると、おじさんは「コシと笑つて、
「えええ、歩行者さんお先にどうぞ。」

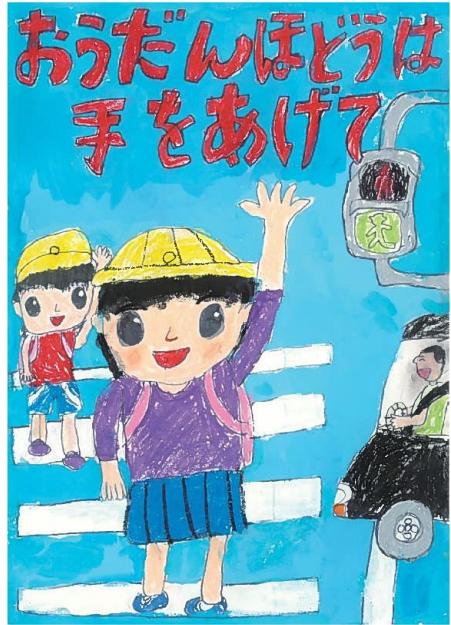
と、手で合図をしてくれました。

私は、おじさんに、頭をさげて、左右を確認し、横断歩道を渡りました。

「おじさん、ありがと。」

きっと、車を運転する全ての人達が、このおじさんのような、歩行者を大切にしてくれる、優しい運転手さんでいっぱいになりますように。

交通安全ポスターの部 優秀作品



優秀／近藤 りこ（駒場小2年）



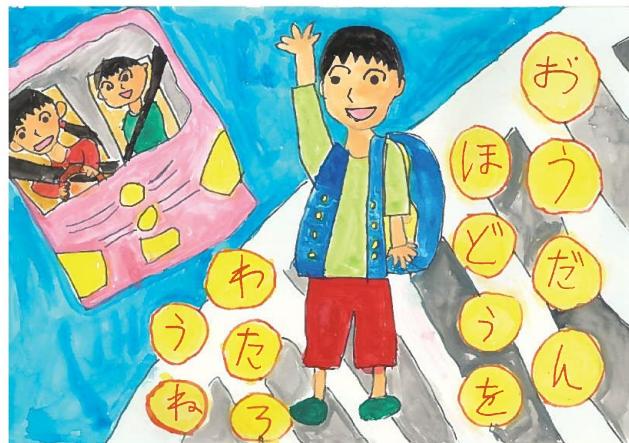
優秀／安藤 源希（久平小1年）



優秀／青木 愛莉（衣丘小1年）



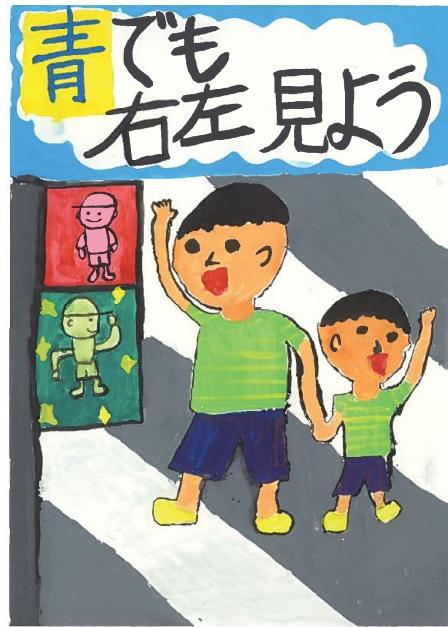
優秀／福井 莉音（前山小2年）



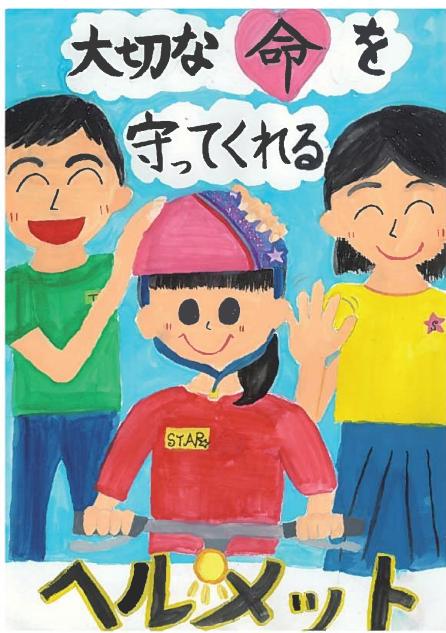
優秀／山内 煌大（青木小2年）



優秀／近藤 里乃杏 (畠部小4年)



優秀／田川 士温 (根川小3年)



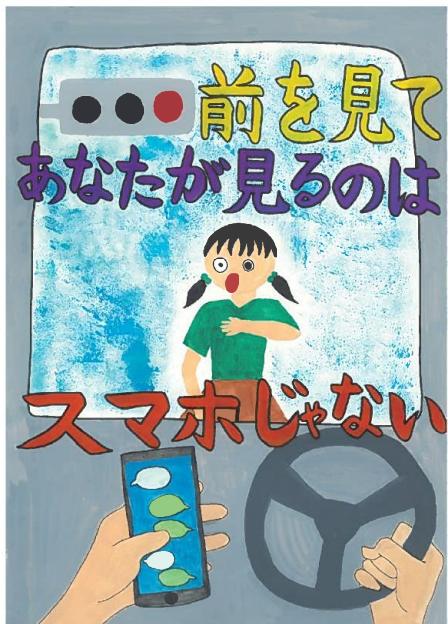
優秀／岩下 琴実 (堤小4年)



優秀／田中 愛莉 (根川小3年)



優秀／小野田 ひかる（保見中3年）



優秀／山田 菜生美（青木小5年）

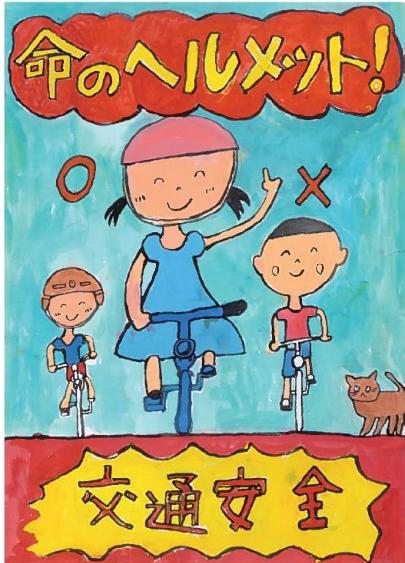
ポスター優秀



優秀／本間 晴也（豊田西高1年）



優秀／木野 友愛（童子山小5年）



佳作／鈴村 冬華（大林小2年）



佳作／安江 佑香（九久平小1年）



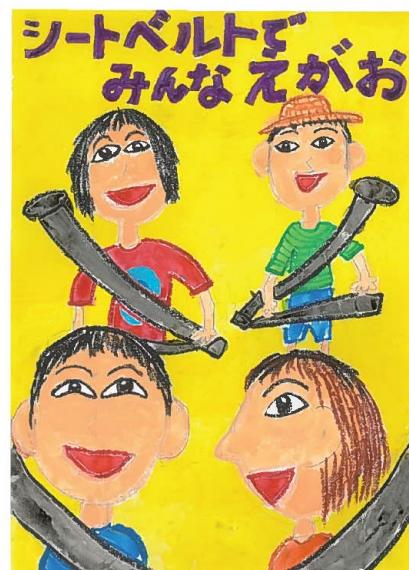
佳作／小山 莉（堤小2年）



佳作／村松 咲希（高嶺小1年）



佳作／元 杏奈（堤小2年）



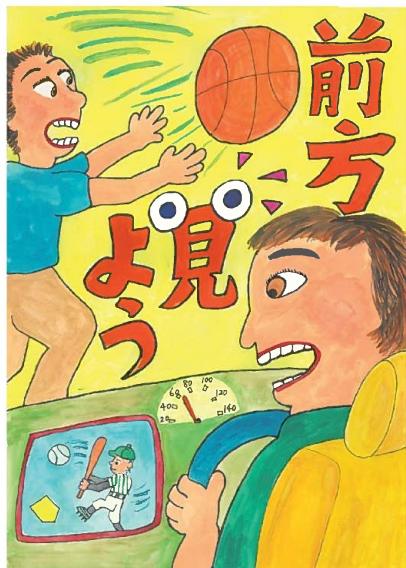
佳作／矢野 愛佳（梅坪小2年）



佳作／鍛治川 梨乃（古瀬間小3年）



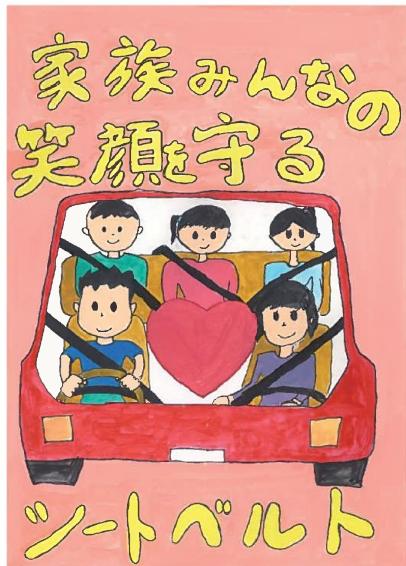
佳作／岡崎 真生（童子山小2年）



佳作／手島 美緒（駒場小3年）



佳作／勝上 莉琉（飯野小3年）

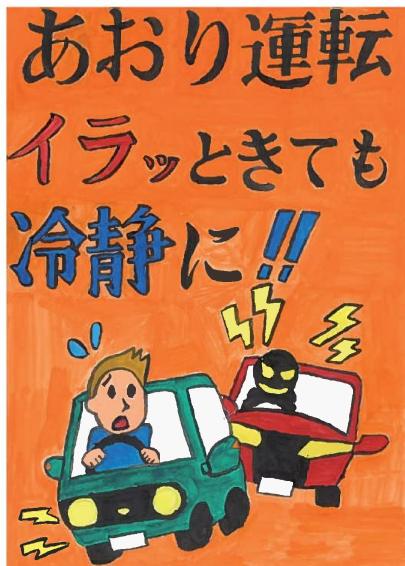


佳作／井上 莉那（平和小3年）



佳作／小沢 恋奈（梅坪小3年）

ポスター佳作



佳作／田中 陽大（根川小6年）



佳作／小塚 隼翔（梅坪小4年）

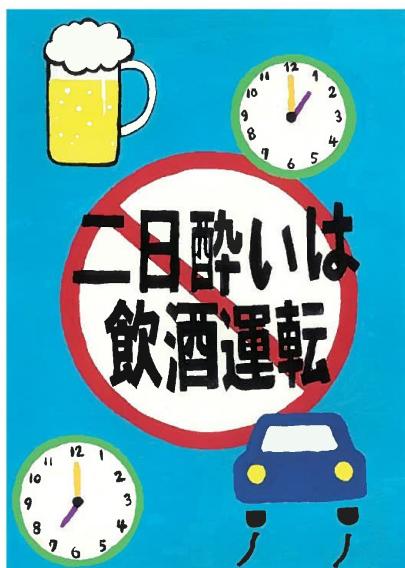
ポスター佳作



佳作／服部 里沙（保見中1年）



佳作／畔柳 美那（幸海小6年）



佳作／河合 諒成（猿投台中2年）



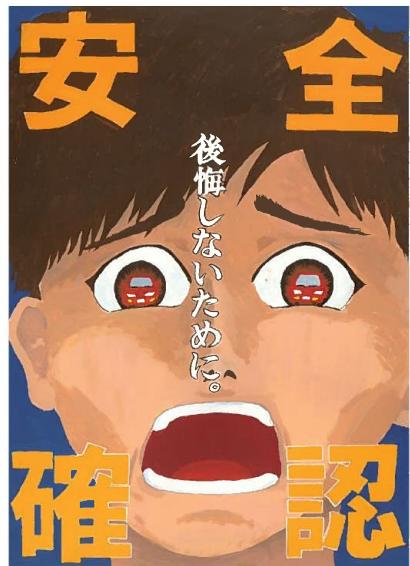
佳作／石井 万葉（高嶺小6年）



佳作／溝口 羽由（竜神中2年）



佳作／山田 芽玖美（猿投台中2年）



佳作／西村 鯱馬（猿投台中3年）

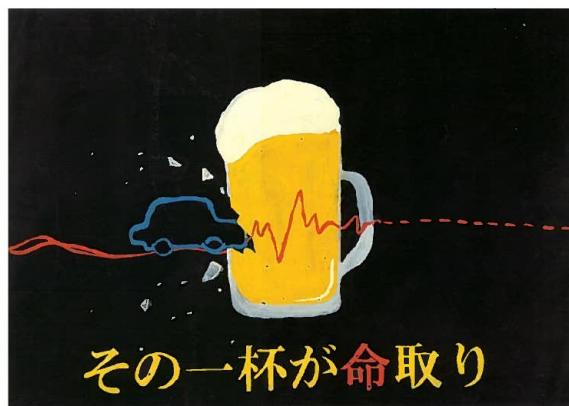


佳作／井上 詠太郎（豊南中2年）

ポスター佳作



佳作／福嶋 理央（崇化館中3年）



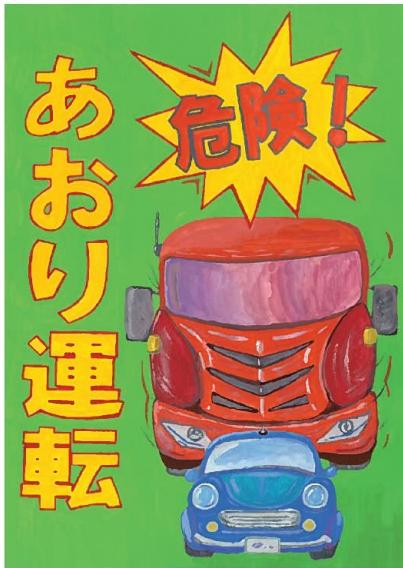
佳作／高橋 ひな（竜神中2年）



佳作／手嶌 将太（前林中3年）



佳作／鬼塚 莉帆（高岡中3年）



佳作／渡辺 苍都（豊田西高1年）



佳作／大家 ヒカリ（保見中3年）



佳作／小島 杏爾（松平高1年）



佳作／加納 愛莉（保見中3年）

交通安全標語の部

最優秀作品 豊田市交通安全市民会議会長賞

てをあげて くるまとわたし めでかいわ

前山小学校 1年 水口 優莉子

◎は優秀 ○は佳作

《歩行者の交通事故防止》

◎ありがとう ペコッとおじぎ いい気もち	朝日小学校	2年 宇野 光輝
◎点滅は ダッシュの合図じゃ ありません	根川小学校	2年 日下部 龍介
○なれたみち きけんがいっぱい かくれんぼ	若林西小学校	1年 大槻 りさ
○スマホより わたしがあげてる 手を見てね	加納小学校	2年 山田 菜羽

標
語

《子ども・高齢者の交通事故防止》

◎めんきょしょう かえすゆう気が いのちをすくう	前山小学校	2年 平山 煌貴
◎くらやみは 目立つ色着て じこぼうし	美山小学校	4年 小島 輝乃
○ぼくはここ はんしゃばんで つたえよう	井上小学校	1年 白井 菜津穂
○ふべんより いのちがだいじ めんきょへんのう	浄水小学校	1年 水谷 優希

《自転車の安全利用促進》

○ぼくたちの 生死を分ける ヘルメット	若林西小学校	2年 鈴木 裕麻
○自転車も ながら運転 したらダメ	岩倉小学校	5年 三浦 光晟

《『ドライバーの安全運転促進』》

◎運転中 スマホ気にして 消える視野	平和小学校	3年 松田 龍之介
◎車間距離 心のゆとりに 比例する	前山小学校	6年 小野 祐甫
◎飲酒運転 自分の甘さに 酔わないで	松平高等学校	1年 楠本 怜
○スマホには 危険を知らせる 機能なし	井上小学校	5年 澤田 光
○気をつけて そこの道から ほら人が	竜神中学校	2年 戸田 彩菜
○覚えているかい？ ハンドル初めて 握った日	足助中学校	3年 安倍 伊吹

《『全席シートベルト・チャイルドシート着用の徹底』》

◎だっこでは かわいい赤ちゃん 守れない	浄水小学校	4年 市川 穂香
○ベルトOK これがわが家の あい言葉	伊保小学校	3年 柳原 杏南

《『あおり運転防止』》

◎あおらない やさしいうんてん みんながえがお	駒場小学校	1年 鈴木 緋斗
◎あおらない その後の人生 考えて！	浄水小学校	3年 松井 智輝
◎前もって 譲る心に 煽り消え	聖心町	平山 泰章
○その運転 わが子をのせて できますか	野見小学校	6年 篠田 あかり

《『交通安全全般』》

◎免許証を 返せるじいちゃん かっこいい	古瀬間小学校	6年 田口 ほのか
○持つべきは 煽る友より 止める友	猿投農林高等学校	1年 上島 光理



令和元年度 交通安全作品 応募・審査結果

交通安全作文の部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校（低）	16	2	1	1
小学校（高）	7	0	1	1
中学校	169	2	1	0
高校・一般	129	2	1	0
合計	321	6	4	2

交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校（低）	910	1	7	12
小学校（高）	1,016	2	4	4
中学校	733	3	1	12
高校・一般	329	0	1	2
合計	2,988	6	13	30

交通安全標語の部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校（低）	1,505	1	6	6
小学校（高）	1,619	0	4	3
中学校	902	0	0	2
高校・一般	457	0	2	1
合計	4,483	1	12	12

総計（作文・ポスター・標語）

	応募数	応募学校数
小学校（低）	2,431	63
小学校（高）	2,642	
中学校	1,804	21
高校・一般	915	4
合計	7,792	88



豊田市教育委員会賞

田中 千晴(元城小1年)

足助警察署長賞

平野 瑠理(足助中3年)



豊田市交通安全 市民会議会長賞

寺田 陽香(若園小6年)



豊田市交通安全市民会議事務局

豊田市役所 交通安全防犯課内

〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60

TEL:0565-34-6633 FAX:0565-32-3794

HP <https://signal.toyota:aichi.jp/>

